

## 施工説明書 / 取扱説明書 (お客様保管)

### パワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)



- 品番 LJDB151 (3.5kWh屋内蓄電池用・一般)
- LJDB152 (3.5kWh屋内蓄電池用・耐塩)
- LJDB201 (5.6kWh屋内蓄電池用・一般)
- LJDB202 (5.6kWh屋内蓄電池用・耐塩)
- LJDC201 (5.6kWh屋側蓄電池用・一般)
- LJDC202 (5.6kWh屋側蓄電池用・耐塩)
- LJDC201A (6.3kWh屋側蓄電池用・一般)
- LJDC202A (6.3kWh屋側蓄電池用・耐塩)

このたびはパナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

#### 【お願い】

- 配線口部は雨水が浸入したり小動物が侵入しないようにパテなどで隙間を確実にシールしてください。
- 圧着端子は適正に加工し、端子ネジは指定のトルク値で確実に締め付けてください。

- 本書では、LJDB151のイラストを使用し、説明しています。
- 施工説明書 / 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(2～3ページ)を必ずお読みください。
- 施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 保証書(この説明書裏表紙)は「系統連系日・販売店名」などの記入を確かめ、大切に保管してください。
- この商品を利用できるのは日本国内のみで、国外では使用できません。

This equipment is designed for domestic use in Japan only and cannot be used in any other countries.

### 施工・設定を動画で確認

本製品の施工方法や設定をWEB上で公開しています。併せてご確認ください。

- ※スマートフォンなどでご覧いただけます。
- ※データ通信料はお客様の負担となります。



## もくじ

安全上のご注意	2
システムのはたらき	4
1. システム図と構成部材	5
2. 施工前の確認	6
3. 設置と配線	10
4. 配線処理	17
5. 配線口処理	17
6. 施工確認とシステムの起動	18
7. 使い方とお手入れ	20
8. こんなときは	21
9. 仕様	22
保証とアフターサービス	23
保証書	裏表紙

保証書付き



BM164120281008

FJ1119-8072

# 安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 <b>警告</b> 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。	 <b>注意</b> 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。
---	--




■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

 <b>禁止</b> してはいけない内容です。	 <b>必ず守る</b> 実行しなければならない内容です。
--	--

## **警告**






感電、けが、発煙、火災のおそれ

### 施工について

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● この「施工説明書」に指示の無い配線、ネジなどについては触れない</li> <li>● 分解や改造は行わない</li> <li>● 高温、多湿、ホコリの多いところ（脱衣所・車庫・納屋・物置・屋根裏など）、水や油の蒸気にさらされるところ（キッチンなど）、温泉などで硫化ガスの発生するところ、可燃性ガスの漏れるおそれのあるところに設置しない</li> <li>● 屋根裏などの隠れて見えないところには設置しない 万一の場合、発見、対処が遅れ、火災の原因になります。</li> <li>● 強い風雨にさらされるところに設置しない</li> <li>● 壁面に取り付けるときに、固定ネジを壁の中にある金属製部材に接触させない 発煙、発火、火災の原因になります。法令により義務づけられています。</li> <li>● ホールソーや電動ドリルなどで穴を開けない</li> <li>● 落下させた機器や変形した機器は使用しない</li> <li>● 施工物や施工場所、作業する方がぬれた状態での作業はしない</li> <li>● リチウムイオン蓄電池ユニットやパワーステーションS+(本体)からの電力線はショートさせない</li> <li>● 不安定な場所、振動または衝撃を受ける場所に設置しない</li> <li>● 通電した状態での配線接続や配線加工を行わない</li> <li>● パワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)の施工を施工業者以外が行わない 専門の技術が必要とするため、施工業者以外が施工を行うと感電、けが、火災、故障のおそれがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 塩害地域など塩分の多いところでは塩害タイプを使用し、適切な場所に設置する 腐食による発火、感電、故障の原因になります。</li> <li>● 電気配線工事作業中は絶縁手袋を着用する</li> <li>● 施工は、指定の部品・部材を使用し、この「施工説明書」に従って確実に行う</li> <li>● 固定する壁は十分に強度があり、製品の質量（取付板などを含めて約 16 kg）に耐えられる場所に確実に行う 必要に応じて壁の補強をしてください。不備があると、パワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)の落下によるけがの原因になります。</li> <li>● 「2-2. 設置場所の確認」(7 ページ)の設置条件を守る 火災・感電・故障のおそれがあります。</li> <li>● 電気工事は、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」「労働安全衛生規則」など関連法令に従って法的有資格者が施工する 本体内部へケーブルを引き込む際は、水が浸入しないように対策してください。</li> <li>● 蓄電池入出力端子台への取り付けはネジの緩みが無いよう、トルクドライバーを使用し指定のトルク値で確実に締め付ける</li> <li>● 各電力線は短絡しないよう、絶縁処理を行う</li> <li>● 前面パネルは確実に閉め、ネジで固定する 雨水の浸入や小動物の侵入による火災のおそれがあります。</li> </ul>
	 必ず守る	
	 アース線接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内線規程に従って接地工事を確実に行う アースが不完全な場合、感電並びに雷などによる機器故障の原因、およびテレビ・ラジオに受信障害が発生することがあります。</li> </ul>


# 警告

## 取扱いについて


 分解禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 分解、改造、部品の取り外しをしない 火災、感電、やけど、故障のおそれがあります。</li> </ul>	 接触禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パワーステーションS+(本体)の運転中や停止直後はパワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)本体や保護ガードに手を触れない 運転中は高温になるため、やけどのおそれがあります。</li> <li>● 災害発生時や雷鳴時にはパワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)に手を触れない 感電、けがのおそれがあります。</li> </ul>
 ぬれ手禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)をぬれた手で触れない 感電のおそれがあります。</li> </ul>	 必ず守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 運転前に次のことを確認する</li> <li>● 屋根裏などの隠れて見えないところに設置されていないか（発見、対処が遅れて火災のおそれ）</li> <li>● 製品質量（取付板などを含み約 16 kg）に耐えられる取り付けか（落下によるけがや故障のおそれ）</li> <li>● 不安定な場所、振動または衝撃を受ける場所でないか（けがや故障のおそれ）</li> <li>● 激しい風雨にさらされないか（感電、火災のおそれ）</li> <li>● 水や油の蒸気にさらされないか（感電、火災のおそれ）</li> <li>● 積雪地域（本製品が雪に埋もれるおそれや、落雪の衝撃を受けるおそれのある場所）に設置されていないか</li> <li>● 腐食性ガス、温泉など硫化ガスの発生は無い（感電、発煙、発火のおそれ）</li> <li>● 爆発性・可燃性ガス、引火性液体は近くに無い（爆発、火災のおそれ）</li> <li>● 「内線規程」に従った接地工事が確実に終わっているか（感電のおそれ）</li> <li>● 煙が出ていたり、こげくさい臭いがするときには、直ちに 21 ページの <b>異常時の対応</b> に従って対処する そのまま運転を続けると、火災のおそれがあります。すぐにお買い上げの販売店にご連絡ください。</li> </ul>
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)の上に乗ったり、ぶら下がったりしない 機器が落下して、けが、感電、故障のおそれがあります。</li> <li>● パワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)の近くで発熱機器(ファンヒーターなど)および蒸気の出る機器(炊飯器など)を使用しない 火災、故障のおそれがあります。</li> <li>● お手入れする際は、ぬれた布でふいたり水洗いをしない 感電、火災、故障のおそれがあります。</li> <li>● 水没またはその形跡がある場合使用しない 機器本体には近づかず、水が引いても手を触れないでください。対処はお買い上げの販売店または施工店にご相談ください。（感電・有害ガスの発生・発熱・発火などのおそれ）</li> <li>● パワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)の上に物を置かない 運転時の発熱で発火し火災のおそれがあります。</li> <li>● ガソリンや灯油など揮発性が高く発火しやすい物を近くに置かない 火災のおそれがあります。</li> <li>● パワーステーションS+(蓄電池用コンバータ)の近くで殺虫剤などの可燃性ガスを使用しない 引火し、やけどや火災のおそれがあります。</li> </ul>		

# 注意


## けが、感電、発煙、動作障害、故障のおそれ

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特殊な場所（自動車・船舶など）には設置しない</li> </ul>
---	--

## 取扱いについて

 必ず守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お手入れなどをするときは、パワーステーションS+(本体)の運転を停止し、太陽光発電システム連系ブレーカをOFF(切)にする OFF(切)にしなかったり、OFF(切)の順序を間違えると感電、故障のおそれがあります。</li> <li>● 地中にケーブルを埋める場合や屋外にケーブルを施設する際は、電線管(PF管)を使用する</li> </ul>
---	--

## お手入れについて

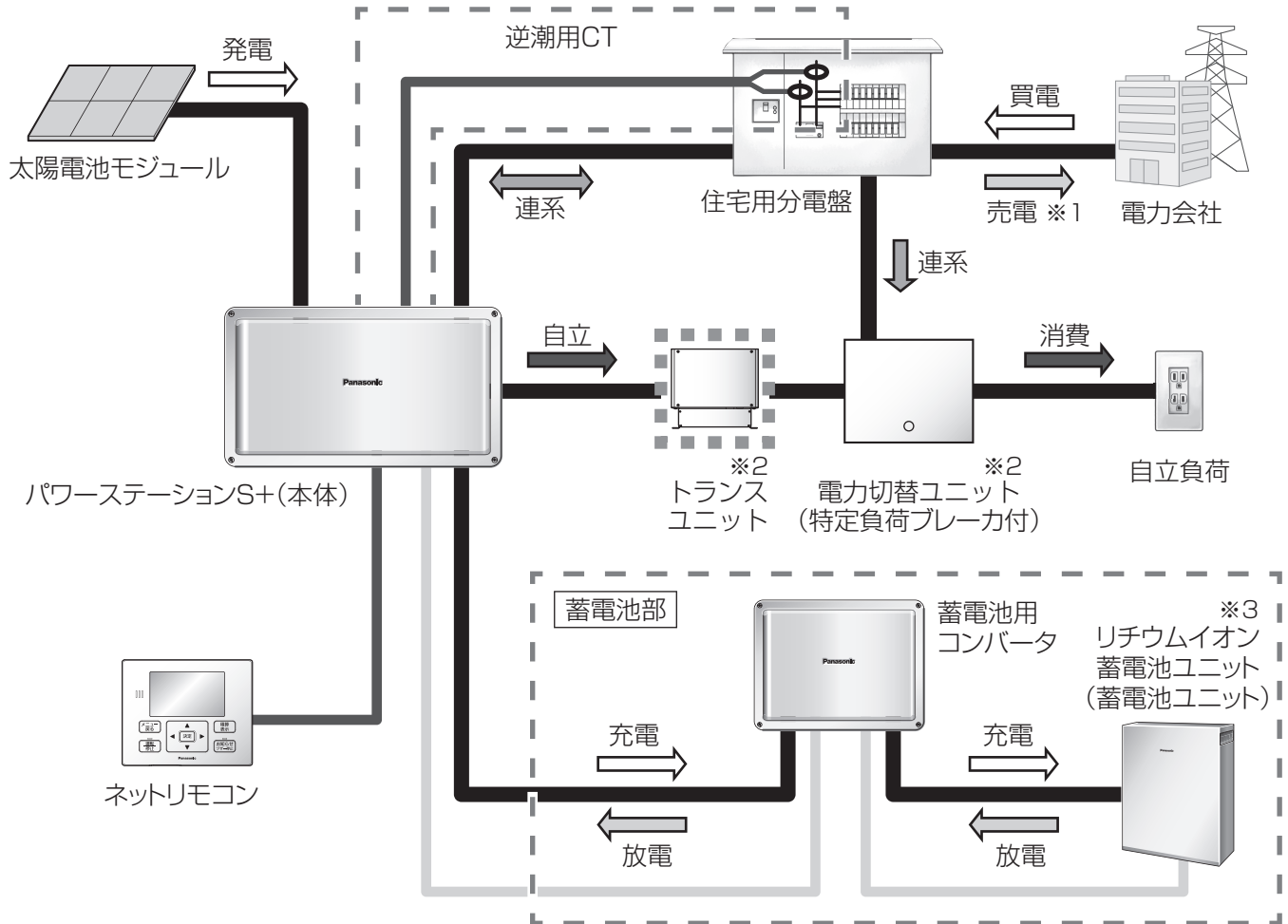
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高圧式洗浄装置や洗剤、薬品類（スプレー剤などを含む）を使わない 火災、感電、故障の原因になります。</li> </ul>
---	---

# システムのはたらき

本製品は、パワーステーションS+(本体)とリチウムイオン蓄電池ユニット(以下、蓄電池ユニットと記載)をつなぐことにより、太陽光発電電力や系統電力より蓄電池ユニットに電力を貯めることができる蓄電池部用蓄電池用コンバータ(以下、蓄電池用コンバータと記載)です。

本書と共にパワーステーションS+(本体)と蓄電池ユニットの施工説明書をご確認のうえ施工してください。

## ■ 接続例



蓄電池用コンバータの運転は自動となっています。ネットリモコンで蓄電池用コンバータ、蓄電池ユニットの運転状態の表示や操作をします。

- ※ 1 蓄電池ユニットから放電された電力は売電できません。
- ※ 2 自立出力設定を 200 V に設定した場合、必ずトランスユニットが必要となります。電力切替ユニットは単相 3 線用の電力切替ユニットをご使用ください。電力切替ユニット (60 A タイプ / 100 A タイプ) の分電盤一次側設置では、配線が異なります。
- ※ 3 設置環境に合った、リチウムイオン蓄電池ユニットを選択してください。

本文中、「ネットリモコン(パワーステーションS+用)」を「ネットリモコン」と説明しています。また、特に指定が無い場合、リチウムイオン蓄電池ユニットLJB1256のイラストを使用しております。

蓄電池用コンバータは、対応するリチウムイオン蓄電池ユニットを接続してください。

LJDB151/LJDB152	: LJB1235	リチウムイオン蓄電池ユニット (3.5kWh・屋内)
LJDB201/LJDB202	: LJB1256	リチウムイオン蓄電池ユニット (5.6kWh・屋内)
LJDC201	: LJB2256	リチウムイオン蓄電池ユニット (5.6kWh・屋側・一般)
LJDC202	: LJB3256	リチウムイオン蓄電池ユニット (5.6kWh・屋側・耐塩)
LJDC201A/LJDC202A	: LJB2263	リチウムイオン蓄電池ユニット (6.3kWh・屋側)

塩害地域に設置する場合には、パワーステーションS+(本体)施工説明書の「1-4. 塩害地域への設置について」をご確認の上、LJDB152/LJDB202/LJDC202/LJDC202A(耐塩)タイプをご利用ください。

ただし、耐塩害仕様であっても海水飛沫のかかる場所には設置できません。

また、潮風に直接さらされることを極力回避するような場所へ設置してください。

# 1. システム図と構成部材

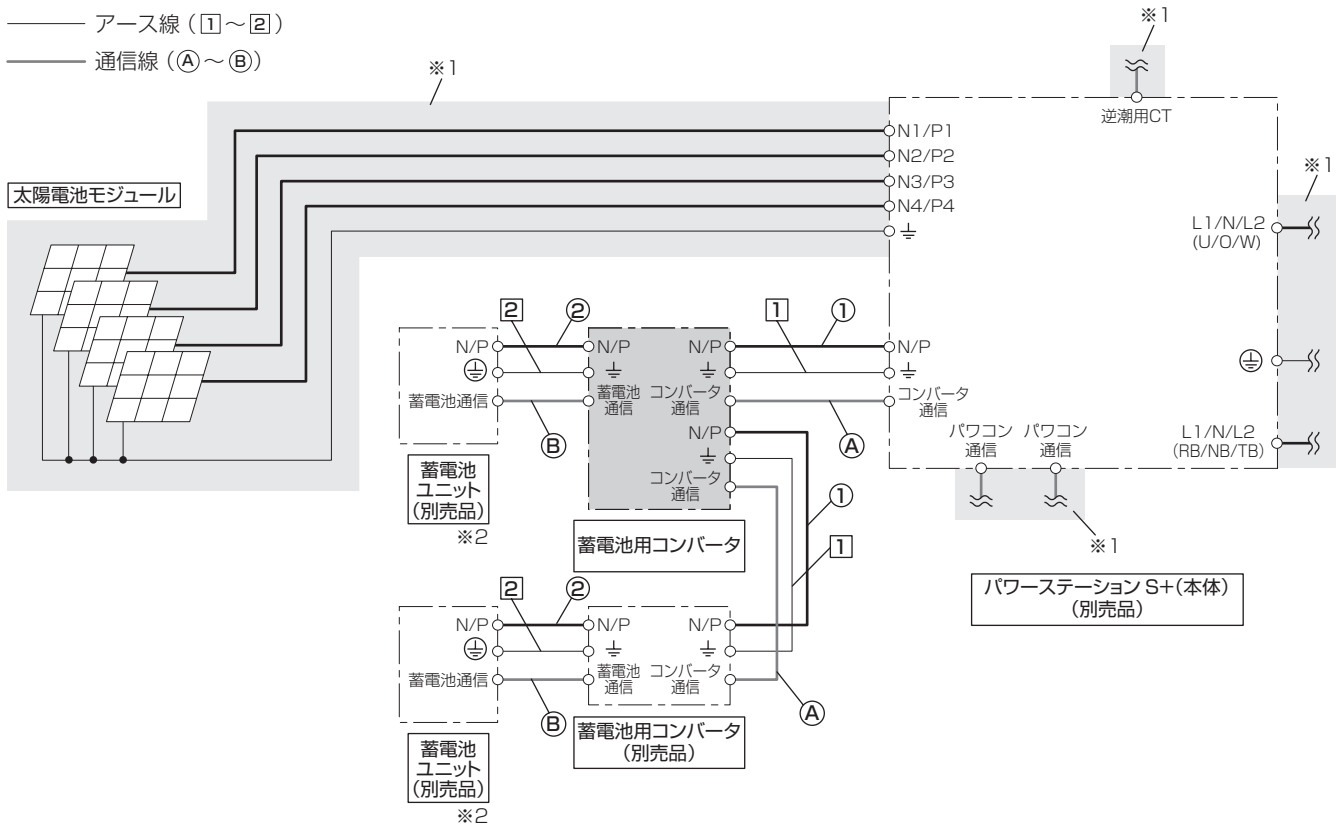
## 1-1. 蓄電池用コンバータの構成

本書と共にパワーステーションS+(本体)と蓄電池ユニットの施工説明書をご確認のうえ施工してください。

### システム代表例 (蓄電池用コンバータ部)

蓄電池用コンバータを中心にシステム代表例を示しています。全体のシステム代表例はパワーステーションS+(本体)の施工説明書をご確認願います。

- 電力線 (①~②)
- アース線 (①~②)
- 通信線 (A~B)



- ※ 1 パワーステーションS+(本体)の施工説明書をご参照ください。
- ※ 2 設置環境に合った、リチウムイオン蓄電池ユニットを選択してください。

### 使用するアース線、電力線、通信線

#### ■ 電力線

電力線	手配	推奨電線種 (推奨最大電線長)
①	現地手配	CV 2心 5.5 mm <sup>2</sup> (最大 5 m)
②	現地手配	CV 2心 5.5 mm <sup>2</sup> (最大 15 m)、8 mm <sup>2</sup> (最大 20 m)

#### ■ アース線

アース線	手配	推奨電線種
①	現地手配	IV 1心 φ 1.6 / 2.0 mm <sup>2</sup>
②	現地手配	IV 1心 φ 1.6 / 2.0 mm <sup>2</sup>

#### ■ 通信線

通信線	手配	推奨電線種 (推奨最大電線長)
①	現地手配	FCPEV 2心 φ 0.9 (最大 5 m)
②	現地手配	FCPEV 2心 φ 0.9 (最大 30 m)

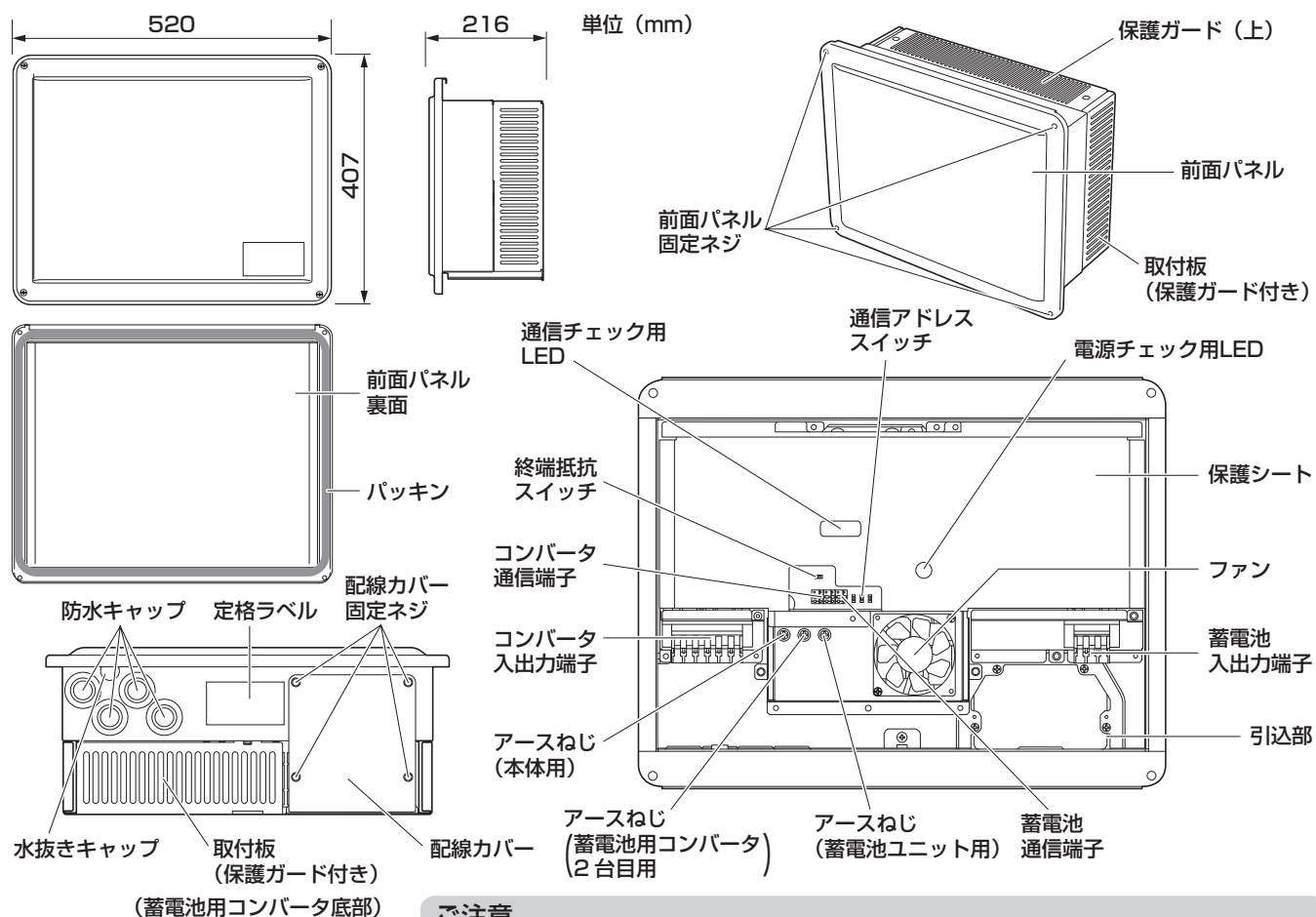
### その他現地調達品

現地調達品	PF 管および防水コネクタまたは配線ダクト (耐候性および防水性タイプ) ※ 3、絶縁チューブ、壁材に応じた固定ネジ、圧着端子 (R5.5-5、8-5NS からケーブル径に合わせて選択) ※ 4、シーリング材 ※ 5
-------	--

- ※ 3 直射日光が当たる部分に関しては、PFD 管をご使用ください。
- ※ 4 圧着端子の型番は参考品番 (日本圧着端子製造株式会社製) を記載しております。
- ※ 5 セメダイン (株) 製 POS シールマルチ (変成シリコン) 相当品を使用して、取付板固定ネジをシールしてください。信越化学工業 (株) 製 KE-4898 (低分子シロキサン低減タイプ) またはケイミュー (株) 製スーパー KMEW シールを使用して、配線口をシールしてください。シロキサンガス発生による電子部品の接点不良を防ぐため、必ず指定のものを使用してください。

## 2. 施工前の確認

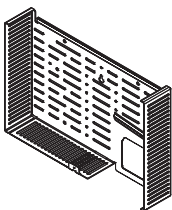



### 2-1. 蓄電池用コンバータの各部名称と同梱品



#### ご注意

- 水抜き穴を塞いだり、水抜きキャップを取り外したりしないでください。
- 保護シートを取り外さないでください。感電のおそれがあります。

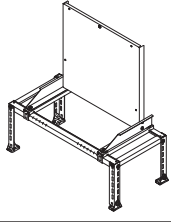
#### 同梱品

同梱品	形状	個数	同梱品	個数
取付板 (保護ガード付き)		1	施工チェックシート	1
			検査成績書	1
			施工業者連絡先記入ラベル ※ 2	1
取付板固定ネジ 5.5 × 80		11	施工説明書 / 取扱説明書 (保証書付き) (本書)	1
保護ガード固定ネジ M4 × 10		1	出荷証明書発行に関するご説明	1
パテ (200 g) ※ 1		1	創蓄連携システム S+ タイプ 補助金申請用 出荷証明書発行申込書	1
工事用型紙		1	返信用封筒	1

※ 1 同梱品のパテで不足する場合は、難燃・不乾タイプのパテを現地調達してください。

※ 2 施工業者連絡先記入ラベルに会社名、電話番号、施工日を記入してお客様に渡し、取扱説明書と一緒に保管していただくように依頼してください。

## 別売品

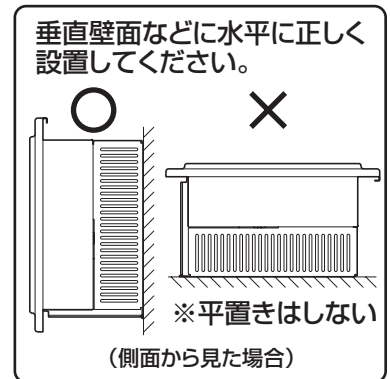
部品名	品番	形状
屋外パソコン用平地置台セット※1	VB8BP55UD2G	

※1 壁掛け設置が困難で自立設置が必要な場合に、使用してください。

## 2-2. 設置場所の確認

### 施工場所の選定

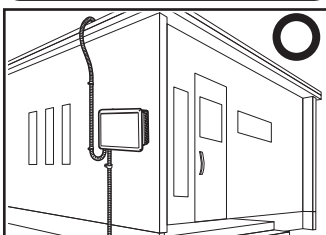
- 標高 1000 m 以下の場所
- 直射日光の当たらない場所
- 放熱を良くするために風通しの良い場所
- 著しい風雨の影響を受けにくい場所
- 周囲温度が  $-20^{\circ}\text{C} \sim +50^{\circ}\text{C}$  の範囲内の場所
- 周囲湿度が 90% 以下の場所
- 温度変化が緩やかな場所（結露しない場所）
- 蓄電池用コンバータの質量（取付板などを含め約 16 kg）に耐えられる場所
- 蓄電池用コンバータを水平・垂直に正しく設置できる場所
- 機器特性上の電磁音が気にならない場所
- 放熱・設置工事に必要なスペースを示す  $\longleftrightarrow$  印のスペースが確保できる場所
- テレビ、ラジオ、無線機などのアンテナ、アンテナ線より、3 m 以上間隔をとれる場所
- 磁力を発生する機器が近くに設置されていない場所



### ご注意

- 積雪地域（本製品が雪に埋もれるおそれや、落雪の衝撃を受けるおそれのある場所）に設置しないでください。
- 塩害地域に設置する場合には、塩害タイプを使用してください。設置に関しては、パワーステーション S+（本体）の施工説明書も併せてご確認ください。
- 電氣的雑音の影響を受けると困る電気製品の近くに設置しないでください。
- 高周波ノイズを発生する機器のあるところに設置しないでください。
- アマチュア無線のアンテナが近隣にあるところには設置しないでください。近隣にアマチュア無線のアンテナがあるところに太陽光発電システムを設置すると、太陽光発電システムの機器や配線から発生する電氣的雑音（ノイズ）を感度の高いアマチュア無線機が受信することで通信の障害となる場合がありますので設置はご遠慮願います。
- 水上および常時水を浴びる場所、住宅の屋側壁面から離れるなどして風雨の影響を著しく受ける場所、冠水のおそれのある場所、水はけの悪い場所には設置しないでください。
- 蓄電池用コンバータを後付けする場合には、隠ぺい配線での施工はできないため、露出配線で施工をしてください。
- 壁の材質により同梱の取付板固定ネジが使用できない場合、壁の材質に応じたネジを現地で調達して使用してください。
- 点検、メンテナンスができない場所へは設置しないでください。  
（足場やはしごなど高所作業が必要となる場所、お客様の点検、お手入れができない場所も含む）

### 良い設置場所の例



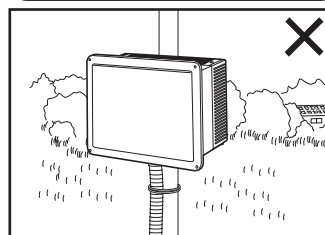
屋側壁面に設置

（日中に直接日光が当たらず、上方にスペースを確保していること）

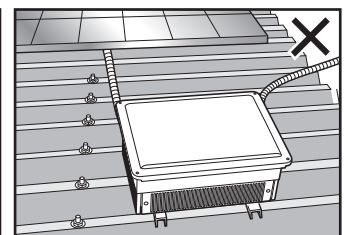
※修理時に足場やはしごなどが必要になる際には、その費用は有償となる場合があります。

- 配線を通す穴には、雨水の浸入や小動物の侵入を防ぐため処理を確実に行ってください。
- 日中に直射日光の当たらない場所に設置してください。

### 悪い設置場所の例



屋根、壁の無い屋外への設置



陸屋根／折板屋根上に平置きで設置

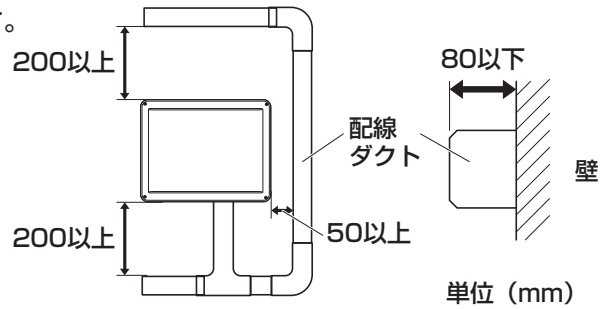
## 2-2. 設置場所の確認 (つづき)

### 配線ダクトを使用する場合

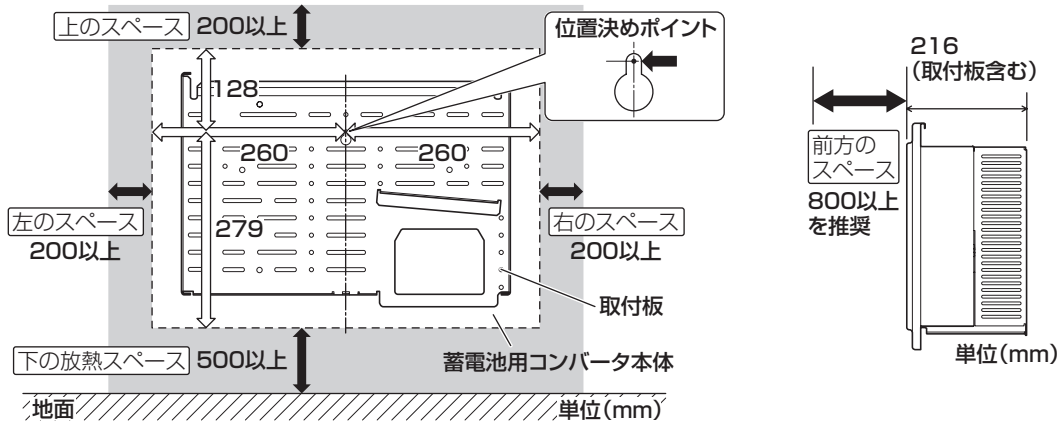
● 配線ダクトを使用する場合に限り以下の条件で設置可能です。

- ① 蓄電池用コンバータ上側と配線ダクトの  
離隔距離が 200 mm 以上
- ② 蓄電池用コンバータ側面と配線ダクトの  
離隔距離が 50 mm 以上
- ③ 蓄電池用コンバータ下側と配線ダクトの  
離隔距離が 200 mm 以上

※ 配線ダクトは耐熱性が高く、かつ壁から突出した高さ寸法が 80 mm 以下のものを使用してください。



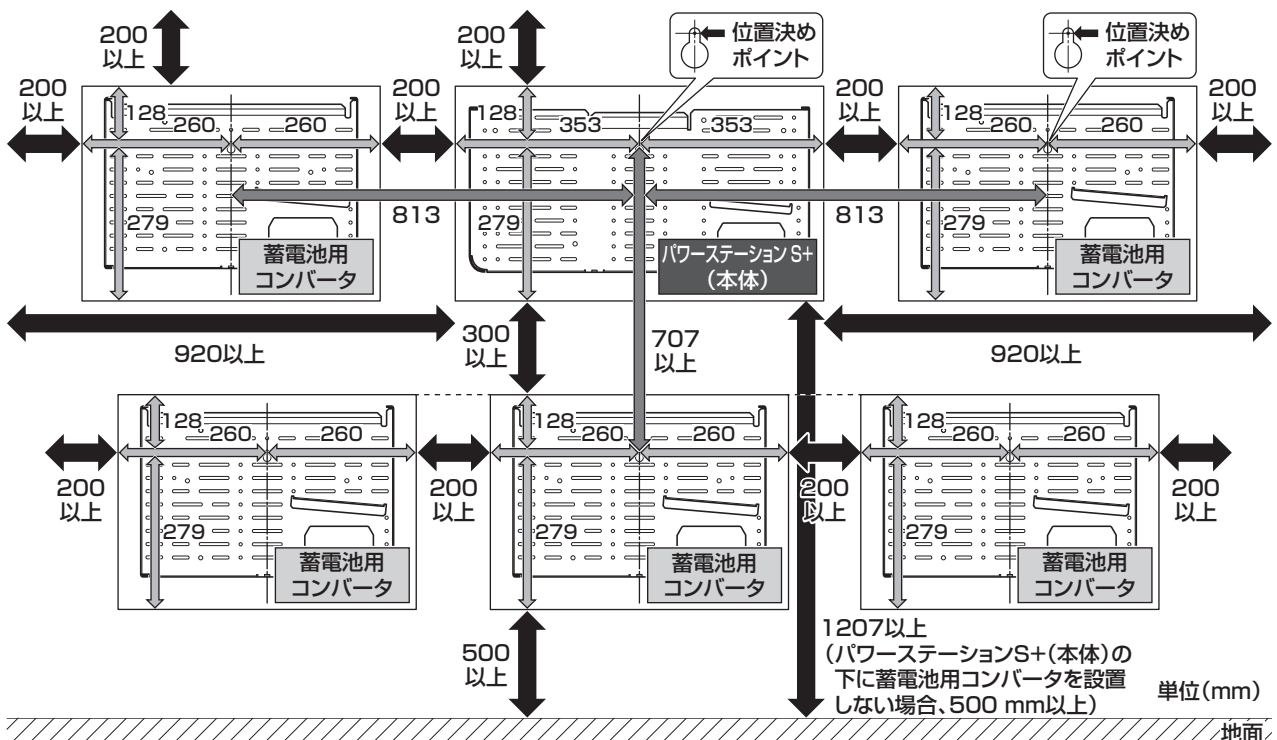
### 放熱・設置工事に必要なスペース



↔ 印の寸法は、本体と境界(壁など)のスペースです。必ず確保してください。

↔ 印の寸法は目安です。必ず工事用型紙を使い、位置を決定してください。

- 上下スペースは、放熱・設置工事に必要なスペースです。
- 設置スペースの他に、施工・操作・保守点検が容易にできるスペースを確保してください。
- 蓄電池用コンバータの上下から 200 mm 以上離れた場所なら、壁から突出した高さ寸法が 80 mm 以下の障害物(ダクト・配管など)、発熱しにくい電力メーターの設置が可能です。
- 蓄電池用コンバータの左右から 50 mm 以上離れた場所なら、壁から突出した高さ寸法が 80 mm 以下の障害物(ダクト・配管など)の設置が可能です。
- 必ずパワーステーションS+(本体)の施工説明書を確認してください。

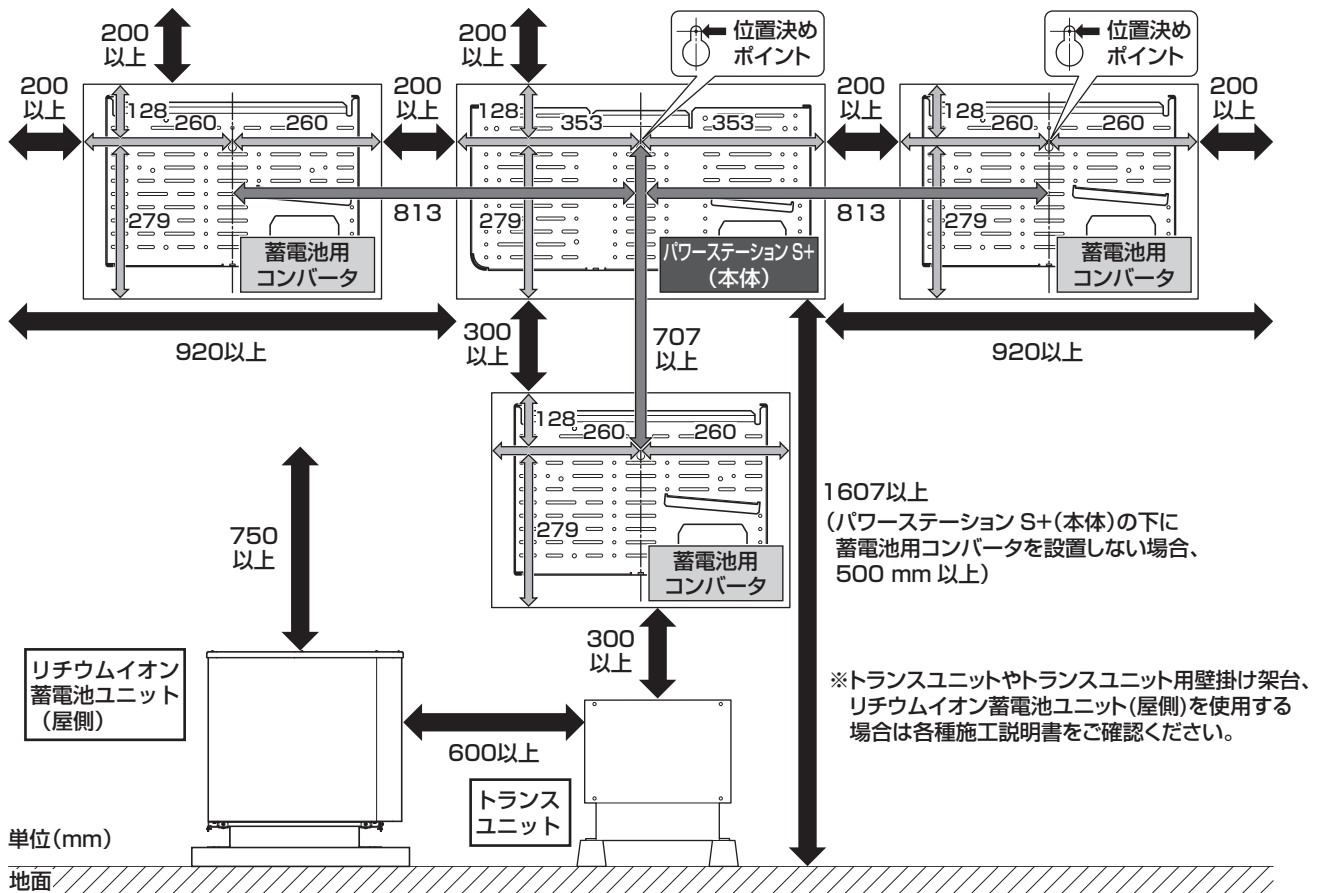




ご注意

- $\longleftrightarrow$  印の寸法は、必ず確保してください。故障や事故などの原因になります。
- 上下設置できる台数はパワーステーション S+ (本体) と蓄電池用コンバータを含めて 2 台までです。
- 設置場所は、必ず施工場所の選定を確認して決めてください。
- 必ずパワーステーション S+ (本体) の施工説明書もご確認ください。

■ 代表設置例 (トランスユニット・リチウムイオン蓄電池ユニット (屋側) 設置)



代表設置例に記載している上段または下段の機器 (パワーステーション S+ (本体)、蓄電池用コンバータ、トランスユニット) の間の離隔距離は、太陽電池モジュールとして HIT を用いたときの代表例となります。太陽電池モジュールに MP モジュール、その他を使用する場合には、右表を参照してください。

太陽電池モジュールが MP モジュール、その他の場合の上下段配置時の離隔距離

設置機器	離隔距離
・パワーステーション S+ (本体) 同士 ・パワーステーション S+ (本体) を蓄電池用コンバータの下側に配置する場合	600 mm 以上
上記以外	300 mm 以上

# 3. 設置と配線

## 3-1. 取付板の固定と配線引込口


### お願い

- 壁に下穴を開け、シーリング材（現地調達「セメダイン（株）製 POS シールマルチ（変成シリコン）相当品」）を入れ込み、壁内部へ水が浸入しないように処理をします。その後、同梱の取付板固定ネジでネジ込んでください。
- 壁の材質により同梱の取付板固定ネジが使用できない場合、壁の材質に応じたネジを現地で調達して使用してください。

### 取付板の取付け例

#### ご注意

- 固定する壁は十分に強度があり、製品質量に耐えられるところに設置してください。固定する柱がない場合は、十分強度のある壁補強材で取り付ける壁の補強を行ってください。
- モルタル、タイル壁など固定ねじの下孔が必要な場合は、適正な孔径で下孔処理を行ってください。
- 軽量鉄骨造に固定する場合は、壁パネルへの下孔処理を行ってください。

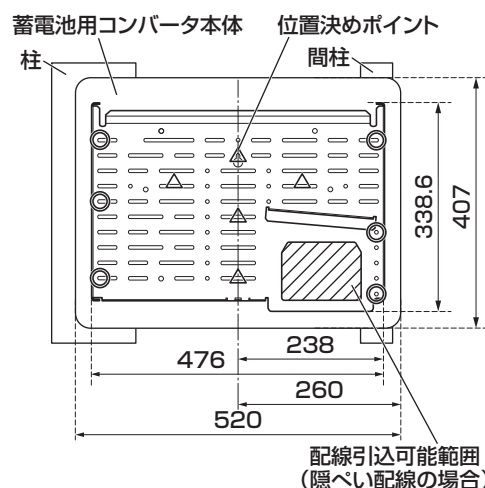
1. 工事用型紙を蓄電池用コンバータ取り付け予定の場所に貼り付けてください。
2. 外壁内の柱と間柱、壁パネルに取り付ける場合、右図を参照して工事用型紙の ○ 位置決めポイントの位置に合わせて取付板固定ネジ1本を仮止めしてください。  
※ 柱ピッチは430 mm、445 mmに対応しています。壁パネル設置の場合も各柱ピッチに合わせて、取り付けてください。詳細な位置は、工事用型紙をご確認ください。  
※ 外壁内の柱1本に取り付ける場合は、工事用型紙をご確認ください。
3. 工事用型紙の柱ピッチに合わせて、水平になるように、もう1か所適当な位置も仮止めしてください。
4. 隠ぺい配線の場合は工事用型紙に従って配線引込可能範囲内  の位置に合わせて必要なサイズの穴を開けてください。
5. 2.、3.で仮止めした取付板固定ネジをいったん外し、工事用型紙を外してください。  
(7.で取付板固定ネジの固定位置を確認するために必要ですので、捨てないでください)
6. 2.で仮止めした取付板固定ネジを再度取り付け、取付板の ○ を引っ掛けてください。
7. 外壁内の柱と間柱に取り付ける場合、右図の6か所の◎部と5か所の△部に、取付板固定ネジで壁に固定してください。△部が取り付け場所により固定できない場合は、任意の位置にバランスよく固定してください。  
※ 外壁内の柱1本に取り付ける場合は、工事用型紙をご確認の上、固定してください。

#### ご注意

- 強度の弱い壁パネルや間柱1本のみに取り付けしないでください。強度が足りず、蓄電池用コンバータが落下する場合があります。取付板は必ず合計11本のネジで固定してください。
- 取付板の配線引込部のネジが適切に固定されていないと、壁と取付板の隙間から水が入り、故障の原因になる可能性があります。
- 6か所の◎部は、必ず柱に取り付けて固定してください。

#### 柱と間柱、壁パネルに取り付ける場合

単位(mm)



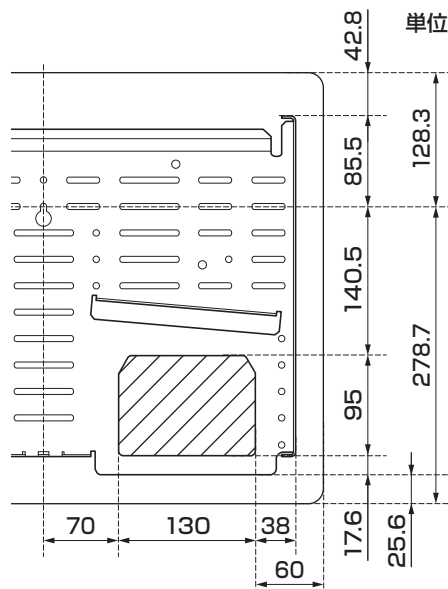
※イラストの柱・間柱は壁内の柱を示しています。

#### 記号の意味

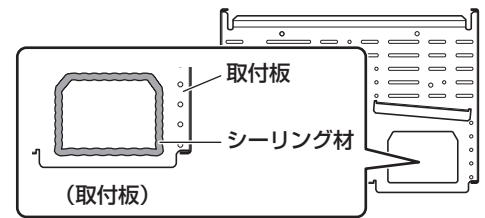
- ◎：必ず固定する箇所
- △：任意の位置にバランスよく固定する箇所

#### 配線引込可能範囲

単位(mm)



8. 取付板の配線口をシーリング材で埋める  
開口部と壁の間に水が浸入したり小動物が侵入しないよう、右図のようにシーリング材（現地調達品）でシールを行ってください。



**ご注意**

- 必ずシーリング材でシールを行ってください。  
下記の原因になります。
  - ・ 外壁面からの雨水浸入による壁内腐食
  - ・ 雨水浸入による蓄電池用コンバータの故障

## 3-2. 準備

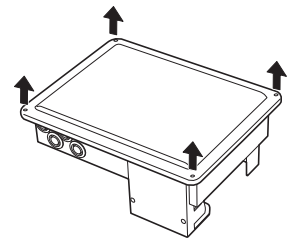
蓄電池用コンバータを仮置きする際は本体背面のキズ防止のため、ダンボールなどを敷いて、その上に置いてください。安全のために、2名以上で梱包箱から取り出してください。

**ご注意**

- 作業時には、(すべり止め付きの) 防護手袋を着用してください。

### 1. 前面パネルを取り外す

4か所の前面パネル固定ネジを緩めてください。  
前面パネル底側を、少し上へ持ち上げながら取り外してください。  
前面パネルは表面にキズがつかないように置いてください。

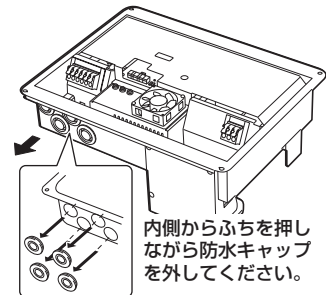


### 2. 露出配線（左側）を使用する場合、防水キャップを外す

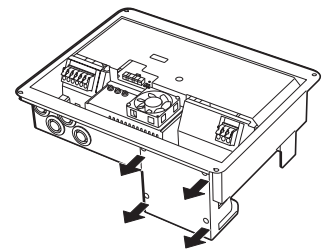
本体に配線用の穴開け加工は不要です。配線に必要な配線口の防水キャップを外してください。また、配線で使用しない配線口の防水キャップは外さないでください。

**お願い**

- 配線するために取り外した防水キャップは、廃棄してください。
- 配線で使用しない配線口の防水キャップは、絶対に外さないでください。
- 防水キャップに穴を開けるなどして、配線しないでください。



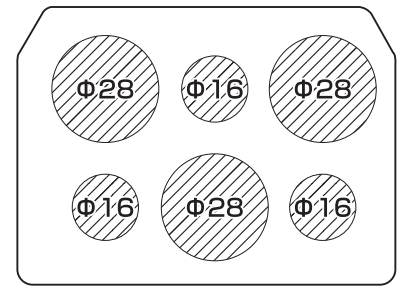
- ### 3. 露出配線（右側）を使用する場合、4か所の配線カバー（下）固定ネジを外す
- 配線カバー（下）の固定ネジを緩めて配線カバーを外してください。



### 3-3. 蓄電池用コンバータの配線

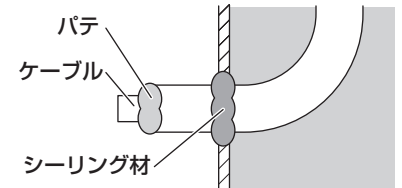
#### A. 隠ぺい配線の場合

- (1) 配線引込可能範囲内に、PF管を通す穴を必要な分だけを開けてください。引込線に対する呼び径は以下の通りです。  
通信線：呼び径Φ16  
電力線：呼び径Φ28  
穴位置など詳しくは、工事用型紙（同梱）をご確認ください。



(呼び径表記、穴あけ参考)

- (2) 隠ぺい配線を行う前に、壁と防水テープの間をシーリング材（現地調達品）で水や小動物が入らないようシールをしてください。PF管とケーブルの間もパテ埋めをしてください。

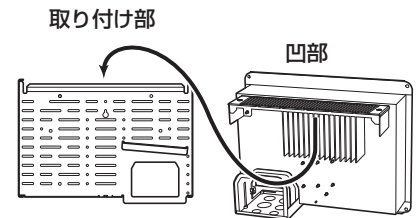


(壁の側面図)

#### ご注意

- シール後に配線を無理に動かすと、シーリング材が剥がれるおそれがありますので、ご注意ください。

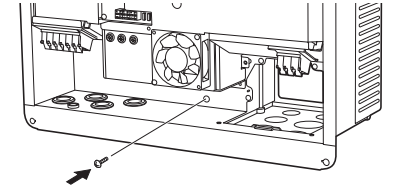
- (3) 蓄電池用コンバータ背面の凹部を、取付板の取り付け部（2か所）に引っ掛けてください。  
左右から2名以上で蓄電池用コンバータを持ち上げてください。



#### ご注意

- 掛かり具合が不十分な場合、落下のおそれがありますので、本体を左右に揺るなどして確認してください。

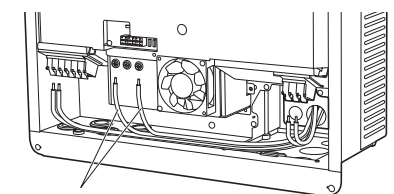
- (4) 蓄電池用コンバータの固定ネジ穴（1か所）に保護ガード固定ネジを取り付け、取付板と蓄電池用コンバータを固定してください。



#### ご注意

- 固定しないと、蓄電池用コンバータが落下するおそれがあります。

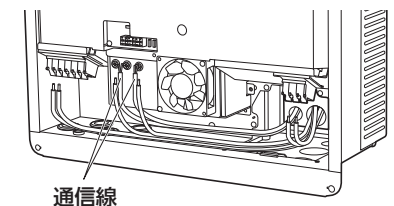
- (5) パワーステーションS+(本体)からのアース線と電力線を通したあと、蓄電池ユニットからのアース線と電力線の順で通してください。



#### ご注意

- 通信線とアース・直流は分けて配線してください。

- (6) 通信線を通してください。



## B. 露出配線の場合

- (1) 前面パネルを外した状態で、蓄電池用コンバータ背面の凹部を取付板の取り付け部（2 か所）に引っ掛けてください。  
左右から 2 名以上で蓄電池用コンバータを持ち上げてください。

### ご注意

- 掛かり具合が不十分な場合、落下のおそれがありますので、本体を左右に揺するなどして確認してください。

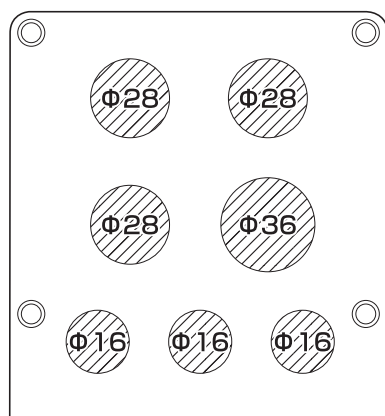
- (2) 蓄電池用コンバータの固定ネジ穴（1 か所）に保護ガード固定ネジを取り付け、取付板と蓄電池用コンバータを固定してください。

### ご注意

- 固定しないと蓄電池用コンバータが落下するおそれがあります。

- (3) 現地調達品の PF 管に各アース線、電力線、通信線を通してください。通信線とその他のケーブルは、別の PF 管をご使用ください。各種ケーブルを通したあと、現地調達品の防水コネクタを必ず使用し、確実に PF 管と接続してください。

- (4) 各配線口には、右図のようにそれぞれのケーブルを通すことを推奨いたします。  
右図を参考に、各アース線、電力線、通信線を通してください。  
通信線とその他のケーブルを別にして通してください。  
PF 管は、呼び径 28 を使用してください。

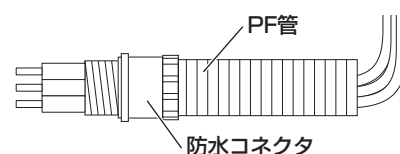
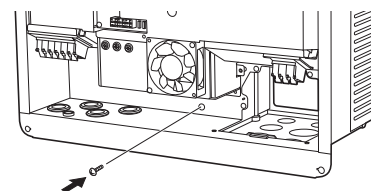
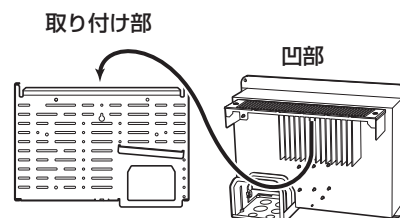


(呼び径表記、穴あけ参考)

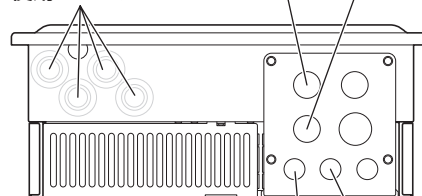
### ご注意

- パワーステーション S+(本体)からの電力線などの配線が余った場合には、蓄電池用コンバータ筐体内の下部で余った分を整線して調整してください。

- (5) 蓄電池用コンバータの配線口をロックナットと防水コネクタで確実に締め、固定してください。



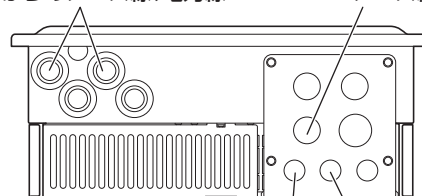
パワーステーション S+(本体)からのアース線、電力線  
蓄電池ユニットからのアース線、電力線  
使用しません



(すべて右側から露出させる場合)

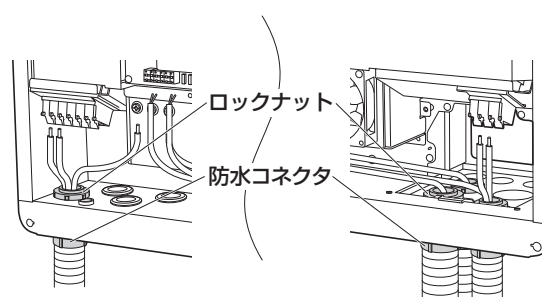
パワーステーション S+(本体)からの通信線  
蓄電池ユニットからの通信線

パワーステーション S+(本体)からのアース線、電力線  
蓄電池ユニットからのアース線、電力線



(左側からも露出させる場合)

パワーステーション S+(本体)からの通信線  
蓄電池ユニットからの通信線



### ご注意

- 露出配線の場合、配線カバーふたは絶対に外さないでください。水の浸入や小動物の侵入などにより、感電、火災、故障の原因になります。

## 3-4. 配線準備

### ご注意

- 静電気による機器の損傷を防ぐため、除電してから作業してください。
- 太陽光発電システム連系ブレーカ、蓄電池ユニット、パワーステーションS+(本体)内の全ての開閉器がOFF(切)になっていることを確認してから作業してください。
- 電動ドライバー・インパクトドライバーなどは絶対に使用しないでください。
- 露出配線する際には必ずPF管を使用してください。
- PF管の曲げ半径(内側半径)は管内径の6倍以上で曲げてください。
- 接続する配線は、下図のケーブル加工を行ってください。
- 圧着端子は電線・端子台との適合を確認し、メーカー指定の工具(YHT-2210など)の方法により適正に加工してください。
- 5、6ページの同梱品、現地調達品および使用するケーブルを確認してください。
- 配線作業時は、短絡、地絡、端子緩み、隣接端子との導電部接触、絶縁被覆の破れ、配線の挟み込みなどに十分気をつけてください。

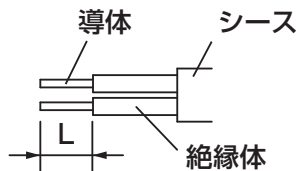
### ケーブルの加工

導体露出長さは、下の表を参考にケーブル径に適した長さをむいて、ケーブル加工をしてください。

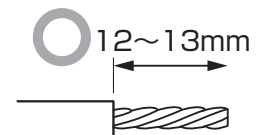
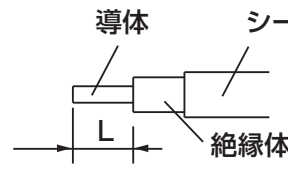
ケーブル	ケーブル径	L: 導体露出長さ
蓄電池用コンバーター蓄電池間電力ケーブル	5.5 mm <sup>2</sup>	12 mm ~ 13 mm
アース線	2.0 mm <sup>2</sup>	
通信線	2心 φ 0.9	8 mm ~ 9 mm

### ケーブルの加工 (ケーブルには必ず絶縁チューブをかぶせてください)

#### ●蓄電池用コンバーター蓄電池間電力ケーブル アース線



#### ●通信線

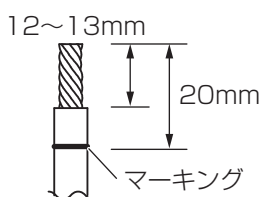


ケーブルのシースや電線の被覆むきも適正な心線を傷つけず、長さでむいてください。  
心線のばらけや心線の曲げがないように実施してください。

### 端子への接続

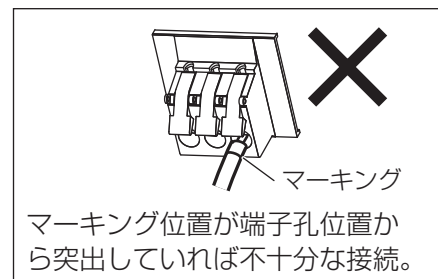
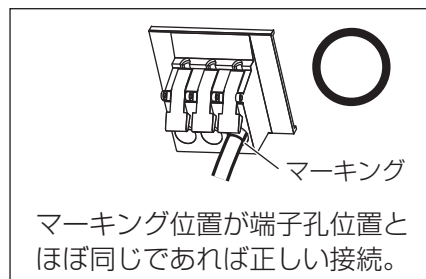
より確実な配線のため、配線にマーキングを実施してください。

#### ■マーキング方法



電線の上記位置に油性ペイントなどでマーキングする。

#### ■差し込み確認方法



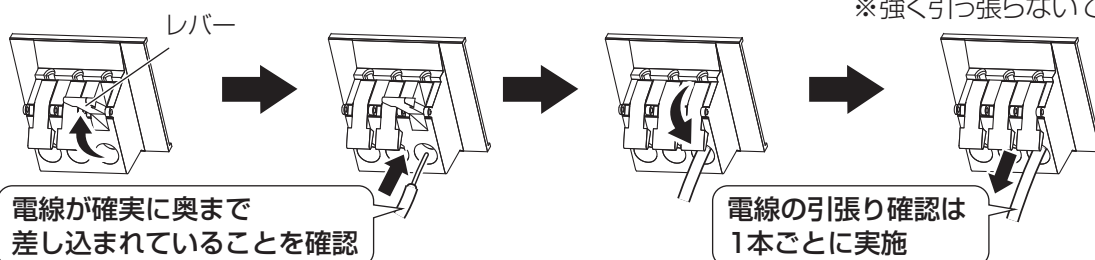
#### ■端子への接続

①レバーを引上げ解除状態にする。

②むいた電線を接続する端子に奥まで差し込む。

③レバーを押し下げる。

④電線を軽く引っ張り、確実に接続されているか確認する。  
※強く引っ張らないでください。



電線が確実に奥まで差し込まれていることを確認

電線の引っ張り確認は1本ごとに実施

### ご注意

- 電力線で接続不良が発生した場合、発火につながるおそれがあります。

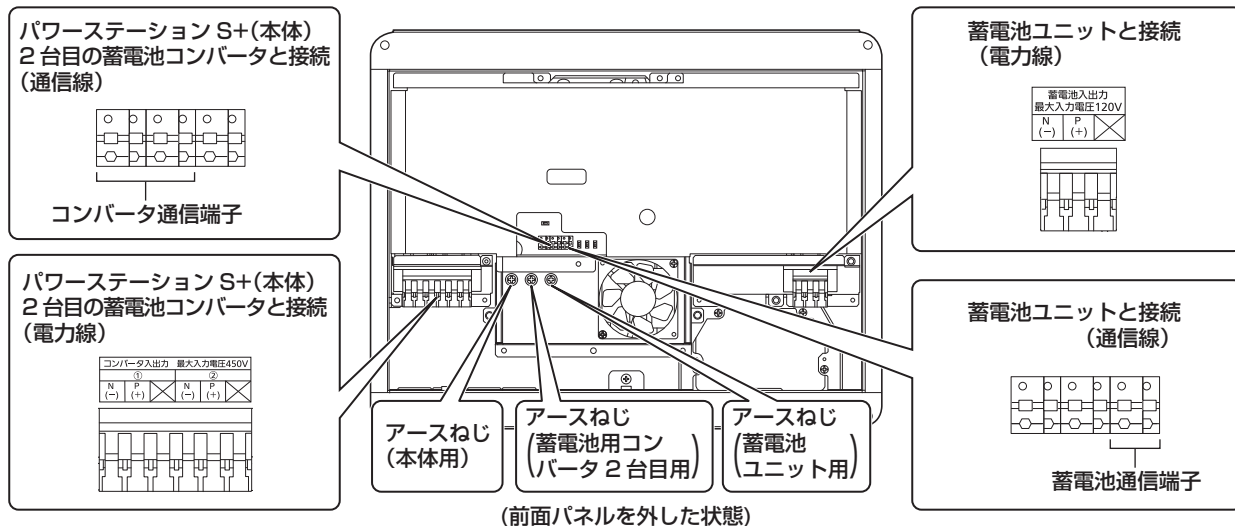
## 3-5. 配線接続

蓄電池用コンバータの配線を接続します。2 台目を接続する場合は、次ページをご確認ください。

### ご注意

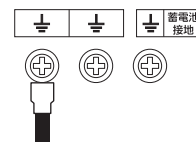
- 必ずパワーステーションS+(本体)の太陽電池用開閉器と太陽光発電システム連系ブレーカがOFF(切)であることと、蓄電池ユニットの開閉器がOFF(切)であり電源が入っていないことを確認してください。

### 配線箇所



### 1. パワーステーションS+(本体)からのアース線の接続

アース線の末端処理をして、パワーステーションS+(本体)からのアース線をアースねじ(本体用)  $\perp$  に接続してください。



### 2. パワーステーションS+(本体)からの電力線の接続

コンバータ入出力端子に本体-蓄電池用コンバータ間の電力ケーブルを接続してください。

### ご注意

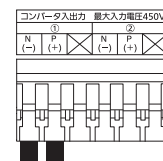
- 直流のN側(-)、P側(+)極性を間違えて接続しないでください。
- 各機器の電源が入っていないことを確認してください。

各開閉器がOFF(切)であることを確認する

- パワーステーションS+(本体)の太陽電池用開閉器 : OFF(切)
- 太陽光発電システム連系ブレーカ : OFF(切)
- 蓄電池ユニットの開閉器 : OFF(切)

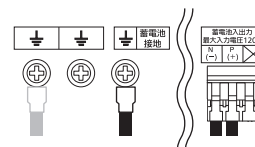
上記の状態に加えて、各機器の電源チェック用LEDが消灯していること(全ての電源をOFF(切)してからLED消灯まで約5分程度)を確認してからケーブルを挿してください。特に、パワーステーションS+(本体)の電源チェック用LEDが必ず消灯している必要があります。感電または、機器が故障するおそれがあります。

- パワーステーションS+(本体)と接続する電力線は、必ずカチッと音がするまで確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合は、接触不良による発煙、発火、火災のおそれがあります。



### 3. 蓄電池ユニットからのアース線と電力線の接続

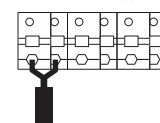
各ケーブルの末端処理をして、蓄電池ユニットからのケーブルを、アース線はアースねじ(蓄電池ユニット用)  $\perp$  に、電力線は蓄電池入出力端子台にそれぞれ接続してください。



### 4. パワーステーションS+(本体)からの通信線の接続

コンバータ通信端子に、パワーステーションS+(本体)からの通信線を接続してください。

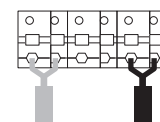
- 通信線には極性がありますので確認のうえ接続してください。



### 5. 蓄電池ユニットからの通信線の接続

蓄電池通信用端子に、蓄電池ユニットからの通信線を接続してください。

- 通信線には極性がありますので確認のうえ接続してください。



### お願い

- 必ずパワーステーションS+(本体)と蓄電池ユニットの施工説明書もご確認ください。

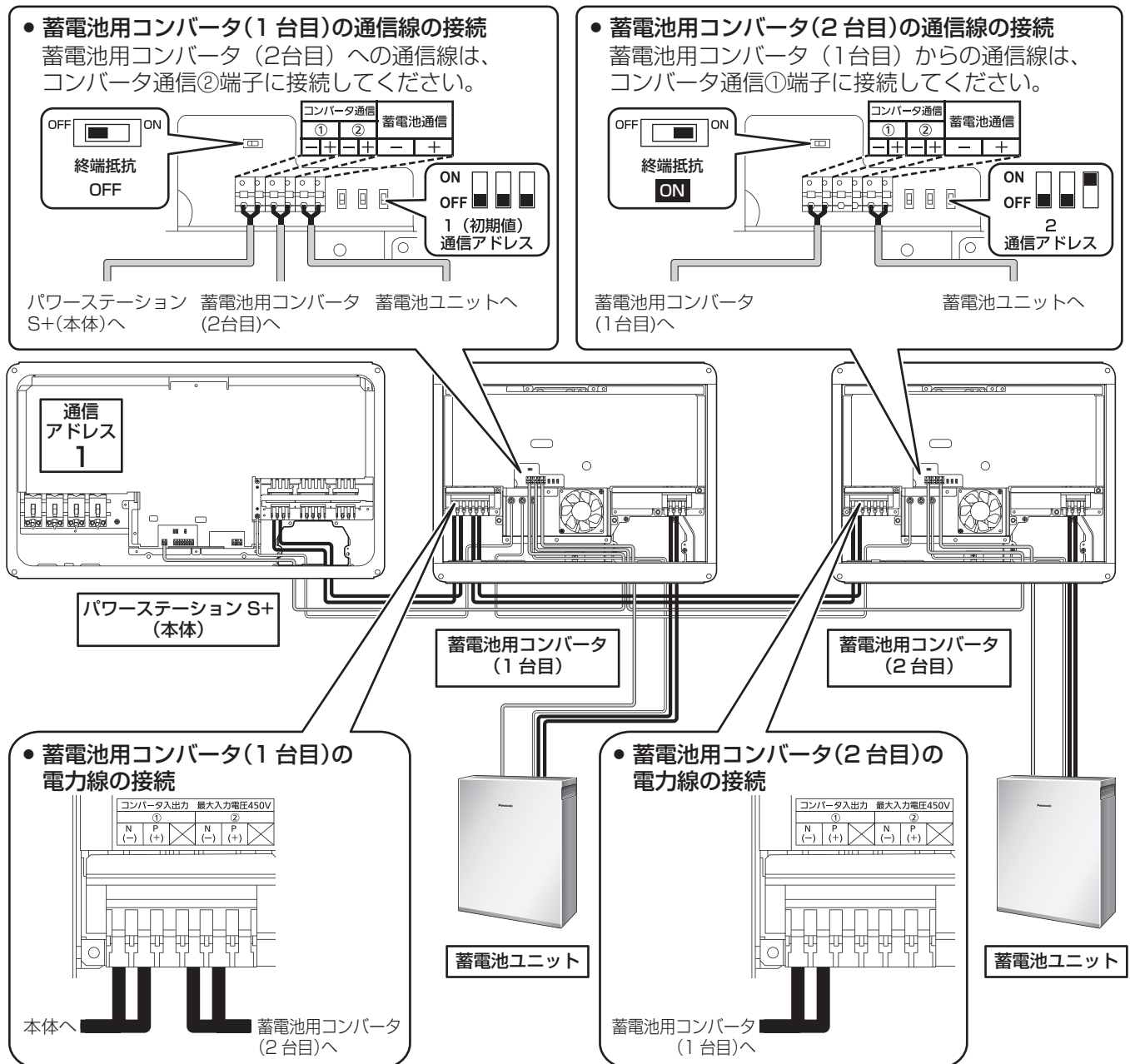
### 3-6. 蓄電池用コンバータ 2 台目接続

パワーステーション S+（本体）は 1 台につき、最大 2 台まで蓄電池用コンバータを接続することができます。必ず、パワーステーション S+（本体）の施工説明書をご確認の上、施工を行ってください。

#### ご注意

- 必要に応じて蓄電池設備表示板を貼り付ける必要があります。パワーステーション S+（本体）の施工説明書もご確認ください。
- 終端抵抗スイッチの設定を正しく設定しないと、通信不良の原因となります。
- 蓄電池用コンバータの 2 台目は、必ず通信アドレススイッチを 2 に変更する必要があります。蓄電池用コンバータの 1 台目は、通信アドレススイッチを 1 から変更する必要はありません。
- 電力線と通信線が 2 台の蓄電池ユニットに正しく配線されているか必ず確認してください。

下記は、本体 1 台目に蓄電池用コンバータを 2 台接続した例となります。



※前面パネルを外した状態（内部配線は省略してあります。）

蓄電池用コンバータを 2 台接続する場合には、蓄電池用コンバータ 1 台目の終端抵抗スイッチは「OFF」に設定してください。



## 4. 配線処理

### ご注意

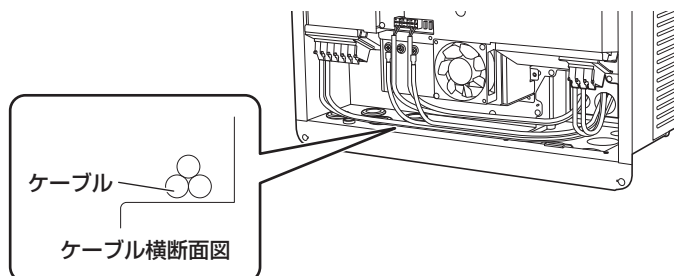
- 配線をする場合、必ずファンに配線など異物がかからないよう注意してください。
- 電力線・アース線は配線後にクランプし、不意に引っ張られた際に接続端子に負荷がかからないようにしてください。

### 配線ケーブルを入れる

ケーブルが手前に出ないように奥に入れてください。  
右図は隠ぺい配線の例となります。

### ご注意

- 配線ケーブルが出ていると、前面パネルを閉めることができません。



## 5. 配線口処理

### 隠ぺい配線

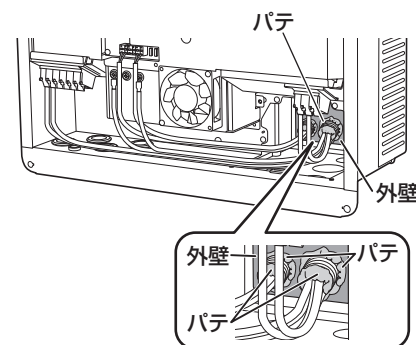
#### シールする

配線を行ったあと、シーリング材またはシール用パテで配線口部を適切な量でシールしてください。

※配線の隙間もパテなどでシールしてください。

### ご注意

- シールが不十分な場合、蓄電池用コンバータ内部に雨水が浸入したり小動物などが侵入して故障の原因になります。



### 露出配線

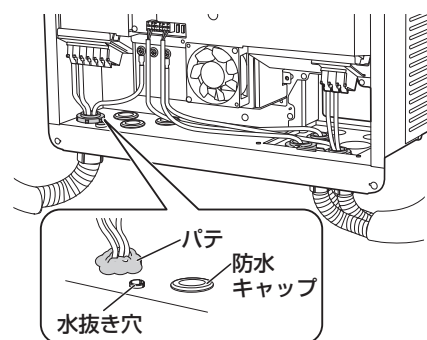
#### シールする

配線を行ったあと、シーリング材またはシール用パテで配線口部を適切な量でシールしてください。

※配線の隙間もパテなどでシールしてください。

### ご注意

- 通信線とその他のケーブルは、同じ PF 管に入れしないでください。
- 配線するために取り外した防水キャップは、廃棄してください。
- 配線で使用しない配線口の防水キャップは、絶対に外さないでください。
- 防水キャップに穴を開けるなどして配線しないでください。
- 水抜き穴には絶対にパテなどのシーリング材を付着させないでください。故障の原因になります。



# 6. 施工確認とシステムの起動

## 6-1. 施工確認

パワーステーション S+（本体）の施工説明書「10. 施工確認とシステムの起動」と、施工チェックシートを併せてご確認ください。

### ● 各機器の接続を確認

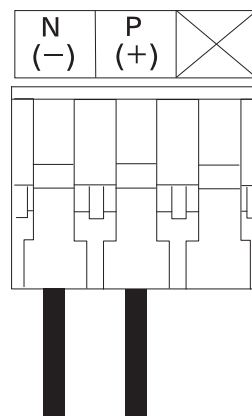
下記の配線や極性が間違っていないことを確認してください。

接続機器		端子	配線
本体～蓄電池用コンバータ		コンバータ入出力端子	電力線
		コンバータ通信端子	通信線
蓄電池用コンバータ～蓄電池ユニット		蓄電池入出力端子	電力線
		蓄電池通信端子	通信線
蓄電池用コンバータ 2台接続時	蓄電池用コンバータ（1台目）～（2台目）	コンバータ入出力端子	電力線
		コンバータ通信端子	通信線
	蓄電池用コンバータ（2台目）～蓄電池ユニット	蓄電池入出力端子	電力線
		蓄電池通信端子	通信線

### ● 必ず電力線の極性を確認

電力線の極性が間違っていないことを確認してください。

測定箇所	判定基準
コンバータ入出力端子	P側（+）、N側（-）の極性が正しいこと
蓄電池入出力端子	アース線が正しいこと



#### ご注意

- 確実に極性が正しいことを確認してください。
- 確実にケーブルが端子に接続されていることを確認してください。（マーキングの位置が正しい位置になっていることを確認してください）
- システムとして絶縁抵抗測定など測定するときには、必ず施工チェックシートも確認の上実施してください。不適切な確認作業を実施することで、機器の故障の原因となります。

## 6-2. システム確認

- 本書やパワーステーションS+（本体）の施工説明書「6. 蓄電池部の設置」を参考にしながら各機器を施工してください。
- パワーステーションS+（本体）の施工説明書「10. 施工確認とシステムの起動」よりシステム全体の施工確認と、「11. 設定と運転開始」より各種設定、運転確認をしてください。
- 施工確認メニューの項目がすべて「（完了）」と表示されていないと、正常に動作しません。

特に、下記の情報が正しく表示されていることを確認してください。

例では、1台目のパワーステーション S+（本体）に1台の蓄電池ユニットが接続されている例となります。

### システム構成情報確認

施工確認メニュー＞システム構成管理＞システム構成確認

（パワーステーションS+（本体）、施工説明書61ページ）

接続されている品番とS/Nが表示されていることを確認してください。

システム構成情報確認			パワコン1
機器ID	品番	S/N	
ID0	LJRC41	01234	
ID1	LJDB151	34567	
	LJB1235	67890	
ID2	_____	_____	
	_____	_____	
[決定] ページ切換			

### システム接続設定

施工確認メニュー＞個別設定＞施工対象選択（対象のパワコン選択）

＞個別設定メニュー＞システム接続設定＞施工対象選択（対象の機器を選択）


（パワーステーションS+（本体）、施工説明書64ページ）

接続している場合はON、接続していない場合はOFFを選択してください。

システム接続設定			パワコン1
▶ 太陽光	<input type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	
蓄電池1	<input type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	
蓄電池2	<input type="radio"/> ON	<input checked="" type="radio"/> OFF	
◀項目選択	[決定] 設定完了		

## 6-3. 前面パネルの取付け

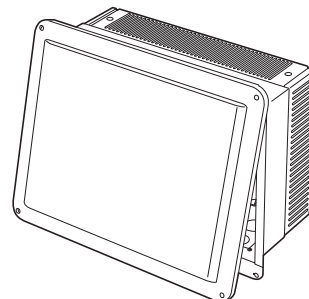
### ご注意

- 前面パネルを取り付けるときは、必ずネットリモコンの  ボタンでパワーステーションS+(本体)の運転を停止させた状態で作業してください。感電などによるけがの危険があります。
- 電動ドライバー・インパクトドライバーなどは絶対に使用しないでください。

### 1. 前面パネルの上側を蓄電池用コンバータ本体上部に引っ掛ける

#### ご注意

- 前面パネルを開閉する際に、保護シートや指を挟まないようにしてください。
- 前面パネルを取り付ける際は、前面パネル内側のパッキンを傷つけないように注意してください。

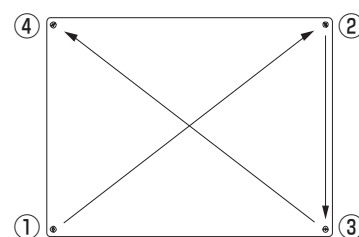


### 2. 前面パネル固定ネジをトルクドライバーを使用して固定する


前面パネルをしっかり固定するため、必ず右図の順番で仮締めしてから規定トルクで確実に締め付けてください。

(締付トルク：2.7 N・m～3.0 N・m)


※ ドライバービットサイズは、No.3 を使用のこと



### お願い

- 前面パネルの取り付け後、日中、十分な日射がある状態で、ネットリモコンの  ボタンでパワーステーションS+(本体)の運転を開始し、ネットリモコンの表示部に発電量が表示されていることを確認してください。

## 6-4. 施工チェック

No.	内容	チェック
1	設置場所は、「2-2. 設置場所の確認」(7 ページ参照) の場所を満たしていますか。	
2	温度・湿度・周辺環境(塩害、爆発性・可燃性・腐食性ガス、ホコリなど)は適切ですか。	
3	施工場所の強度は本体の質量に耐えられる場所ですか。	
4	放熱・設置工事に必要なスペースに示す  印のスペースが確保されていますか。	
5	本体は水平・垂直に設置されていますか。	
6	蓄電池用コンバータは取付板にしっかりと固定されていますか。	
7	アース線の接続は確実ですか。	
8	内線規程に従った接地工事が行われていますか。	
9	接続ケーブルのP側(+), N側(-)は正しいですか。	
10	磁力を発生する機器から離れて設置していますか。	
11	蓄電池入出力端子の配線に緩みがありませんか。	

パワーステーションS+(本体)の「11.設定と運転開始」を確認してください。

## 7. 使い方とお手入れ

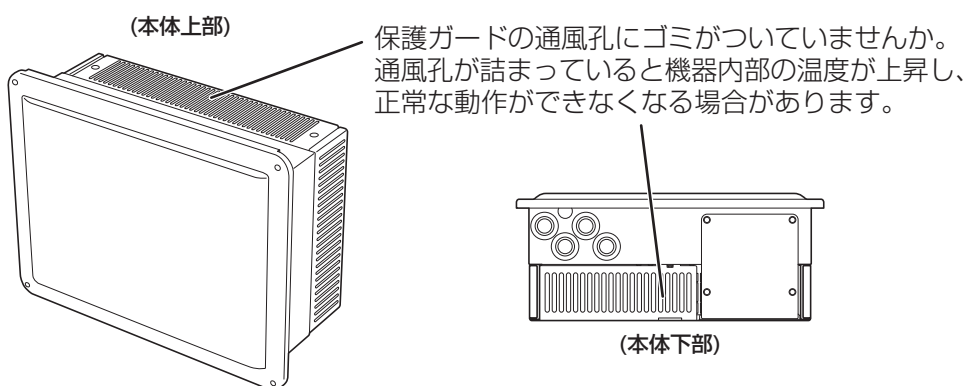
### 使用上のお願い

- 電氣的雑音の影響を受けると困る電気製品の近くで使用しないでください。  
電気製品の正常な動作ができなくなるおそれがあります。さらに PLC、LAN など通信を利用する機器については、相互に干渉し正常な動作ができなくなるおそれがあります。
- アマチュア無線のアンテナが近隣にあるところで使用しないでください。  
近隣にアマチュア無線のアンテナがあるところに太陽光発電システムを設置すると、太陽光発電システムの機器や配線から発生する電氣的雑音を感度の高いアマチュア無線機が受信することで通信の障害となる場合があります。



### 7-1. 使い方

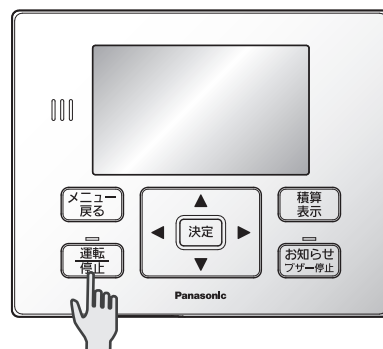
- 本製品はパワーステーションS+(本体)と同様に日射の有無や負荷量、運転モードに応じて自動的に充電や放電するため、通常は操作は不要です。

### 7-2. お手入れ



- 本製品に明らかに支障をきたすようなホコリなど異物が付着している場合は以下の手順で取り除いてください。

1. ネットリモコンの  ボタンで、パワーステーションS+(本体)の運転を停止する  
(パワーステーションS+(本体)の運転・停止の仕方については、パワーステーションS+(本体)の取扱説明書をご覧ください。)
2. 太陽光発電システム連系ブレーカを OFF (切) にする
3. 蓄電池用コンバータが十分に冷えていることを確認してから、保護ガードの通風孔などに付着した異物を取り除く
4. 太陽光発電システム連系ブレーカを ON (入) にする
5. ネットリモコンの  ボタンで、パワーステーションS+(本体)の運転を開始する



### ご注意

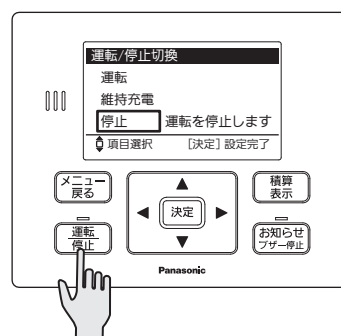
- 保護ガードの通風孔の中にゴミが入らないようにしてください。
- 保護ガードの通風孔がゴミなどに塞がれ、お手入れしても取り除けない場合は、販売店または施工店へ連絡してください。

## 8. こんなときは

### 異常時の対応

#### ■ 煙が出ていたり、こげくさい臭いがする場合

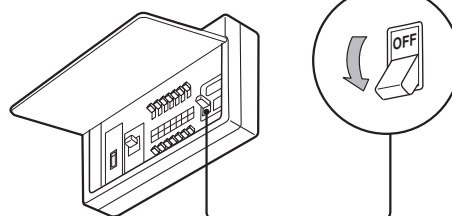
1. 直ちにネットリモコンの  ボタンでパワーステーションS+ (本体)の運転を停止する



2. 太陽光発電システム連系ブレーカを OFF (切) にする

住宅用分電盤の太陽光発電システム連系ブレーカ

※分電盤と別置きの場合があります。



3. その後、速やかにお買い上げの販売店または施工店へ連絡いただき、パワーステーションS+ (本体)の太陽電池開閉器、蓄電池ユニットの開閉器を OFF (切) にしていただくようご依頼願います。

#### ■ その他の異常がある場合

お買い上げの販売店または施工店にご連絡ください。

#### ■ 移設と廃棄時のご注意

- 使用後は速やかにお買い上げの販売店へ連絡し、取り外し、廃棄を行ってください。太陽光発電システムは、関係法令（廃棄物処理法、建設リサイクル法など）に従って産業廃棄物として適切に廃棄してください。詳しくは、平成30年12月27日に環境省より公表された「太陽光発電設備のリサイクル等の推進に向けたガイドライン（第二版）」を参照ください。
- 取り外し、移設、廃棄等を行う場合は、専門技術を要するため、必ずお買い上げの販売店へお問い合わせください。

## 9. 仕様

項目		仕様			
品番		LJDB151(一般)/ LJDB152(耐塩)	LJDB201(一般)/ LJDB202(耐塩)	LJDC201(一般)/ LJDC202(耐塩)	LJDC201A(一般)/ LJDC202A(耐塩)
蓄電池 ユニット側	入出力 電圧範囲	DC 84 V~113.4 V (最大許容電圧： DC 120 V)	DC 78 V~106.6 V (最大許容電圧： DC 120 V)	DC 78 V~113.4 V (最大許容電圧： DC 120 V)	DC 89.6 V~112.0 V (最大許容電圧： DC 120 V)
	入出力 定格電圧	DC 100.8 V	DC 93.6 V		DC 102.4 V
	入出力数	1 入出力			
	入出力 定格電力	充電時：1.0 kW 放電時：1.65 kW (連系) 2.2 kW (自立)	充電時：1.5 kW 放電時：2.2 kW (連系) 2.2 kW (自立)		
	入出力 最大電流	充電時：10.5 A 放電時：24.4 A (連系) 26.0 A (自立)	充電時：16.5 A 放電時：26.0 A (連系) 26.0 A (自立)		
パワー ステーション S+ (本体側)	入出力 定格電圧	DC 330 V (最大許容電圧：DC 450 V)			
外形寸法		520 mm (幅) × 407 mm (高さ) × 214 mm (奥行*1)			
運転音		33 dB 以下			
質量		約 13 kg (取付板 (保護ガード付き) 含む場合、約 16 kg)			
設置場所		屋側壁面			
使用温度範囲		- 20 °C ~ + 50 °C (直射日光が当たらないこと)			
接続可能蓄電池ユニット		LJB1235 (屋内)	LJB1256 (屋内)	LJB2256 (屋側・一般) LJB3256 (屋側・耐塩)	LJB2263 (屋側)
付属品 (お客様用)		施工説明書 / 取扱説明書 (保証書付き) (本書) (1)			

※1 取付板 (保護ガード付き) 含む奥行 216 mm

# 保証とアフターサービス よくお読みください

使いかた・  
お手入れ・  
修理などの  
ご相談は

- まず、お買い上げの販売店または施工店へお申し付けください。
- お買い上げの際に記入されると便利です。

販売店名	_____
電話	_____
系統連系日	____年 ____月 ____日

## ■保証書（裏表紙）

系統連系日・販売店名などの記入を確かめ、お買い上げの販売店からお受け取り、保管してください。

保証期間：系統連系日から本体 1 年間  
ただし、機器故障による発電量損失および機器内記録データの損失は補償いたしかねますので、ご了承ください。

## ■補修用性能部品の保有期間 **10年**

当社は、本製品の機能を維持するために必要な部品を、製造打ち切り後 10 年保有しています。

修理を  
依頼されるとき

- 「こんなときは」(21 ページ)でご確認のあと、直らないときは、運転を停止し、下記の内容をご連絡ください

### ■ご連絡いただきたい内容

- ①品名      ②品番（定格ラベルをご覧ください。）
- ③系統連系日      ④異常の状況（できるだけ具体的に）

- 保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理をさせていただきます。

- 保証期間を過ぎているときは、診断をして修理できる場合は、ご要望により修理させていただきます。

- 修理料金は次の内容で構成されています。

【技術料】 診断・修理・調整・点検などの費用です。

【部品代】 修理に使用した部品および補助材料代です。

【出張料】 お客様のご依頼により技術者を派遣する費用です。

※この商品は日本国内専用品ですので、日本国外で使用しないでください。万一、日本国外で使用された場合は、修理サービスはお受けになれません。

商品の情報はホームページでご確認ください。

パナソニック 住まい

検索

<https://sumai.panasonic.jp/>

## ■転居などでお困りの場合は、以下のお客様相談窓口にご相談ください。

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

修理のご用命は

### 修理ご相談窓口

※インターネットでの依頼も可能です。

<https://sumai.panasonic.jp/support/repair/>

【受付時間】 月～土 / 9:00～19:00 日・祝日・年末年始 / 9:00～18:00



パナソニック  
**0120-872-150**

●左記番号がご利用いただけない場合は…06-6906-1090

※携帯電話からもご利用になれます。



商品の  
お問い合わせは

### ■AISEGを接続して使用している場合

#### 住宅エネルギーマネジメントシステムご相談窓口

<https://sumai.panasonic.jp/support/>

【受付時間】 365日 / 9:00～18:00



パナソニック  
**0120-081-701**

●左記番号がご利用いただけない場合は…06-6780-2099

※携帯電話からもご利用になれます。



### ■AISEGを接続しないで使用している場合

#### 電設資材商品ご相談窓口

<https://sumai.panasonic.jp/support/>

【受付時間】 月～土 / 9:00～18:00（祝日・正月三が日を除く）



個人のお客様 **0120-878-082**

●左記番号がご利用いただけない場合は…06-6780-2551

法人のお客様 **0120-187-431**

●左記番号がご利用いただけない場合は…06-6904-4574

※携帯電話からもご利用になれます。

●FAX… 0120-872-460



Help desk for foreign residents in Japan Tokyo (03) 3256-5444 Osaka (06) 6645-8787  
Open: 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※所在地、電話番号、受付時間などが変更になることがあります。

ご相談窓口における  
お客様の個人情報の  
お取り扱いについて

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いたしております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

## 愛情点検

### 長年ご使用の蓄電池用コンバータの点検を！



こんな症状は  
ありませんか？

- こげ臭いにおいや異常な音がする。
- 頻繁にエラーが発生する。
- その他の異常や故障がある。

このような症状のときは、  
事故防止のため、運転を停止し、  
必ずお買い上げの販売店または  
施工店に点検をご依頼ください。

パナソニック株式会社  
三洋電機株式会社

〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048番地

©SANYO Electric Co., Ltd. 2019-2022

※お客様	お名前	様	※系統連系日	年	月	日
	ご住所		品番	LJDB151/LJDB152/LJDB201 LJDB202/LJDC201/LJDC202 LJDC201A/LJDC202A		
	電話番号 ( ) -		製造番号			
※販売店	取扱販売店・住所・電話番号		保証期間	(系統連系日から)	1年間	

ご販売店様へ 上記※印欄は必ず記入してお渡しください。  
該当する品番を○で囲んでください。

### 無料修理規定

本書は系統連系日から本書に明示した期間中故障が発生した場合には、無料修理規定の内容で無料修理を行うことをお約束するものです。

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
  - 無料修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店にお申しつけください
  - お買い上げの販売店に無料修理をご依頼になれない場合には、お客様ご相談窓口にご相談ください
  - この商品は出張修理をさせていただきますので、修理に際し本書をご提示ください
- ご転居の場合の修理ご依頼先は、お買い上げの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。
- 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
  - 使用上の故意・過失または不当な修理や改造による故障及び損傷
  - お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下等による故障及び損傷
  - 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガス等）等による故障及び損傷
  - 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷
  - 仕上げのキズ等で、お引渡し時に申し出がなかったもの
  - 瑕疵によらない自然の摩耗、さび、かび、変質、変色、その他類似の事由による場合
  - 維持管理の不備による膨れ、汚れ、さび
  - 第三者による管理上、メンテナンス上などの不備に起因する不具合
  - 犬・猫・鳥・鼠などの小動物や虫などの行為に起因する不具合
  - 施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する損傷や故障
  - 建築躯体の変形など対象商品本体以外の不具合に起因する故障および損傷
  - 異常電圧や指定外の電源（電圧・周波数）の使用による故障および損傷
  - 契約時、実用化されていた技術では予防することが不可能な現象またはこれが原因で生じた事故による場合
  - 保証期間経過後に申し出があったもの、または保証該当事項の発生後、速やかに申し出がなかったもの
  - 本書のご提示がない場合
  - 保証書に系統連系日、お客様名、販売店名の記入のない場合（領収書等で左記内容がわかる場合はその限りではありません）、あるいは字句を書き替えられた場合
  - 離島または離島に準ずる遠隔地へ出張修理を行う場合の出張に要する実費
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- お客様ご相談窓口は取扱説明書の保証とアフターサービス欄をご参照ください。

### 修理メモ

※お客様にご記入いただいた個人情報は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただきます。場合がございましたらご了承ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

※保証期間経過後の修理や補修用性能部品の保有期間については取扱説明書の「保証とアフターサービス」をご覧ください。

※This warranty is valid only in Japan.

パナソニック株式会社  
三洋電機株式会社

〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048番地  
TEL (代表) 06-6908-1131